

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム なのはなの家		
所在地	山口県宇部市笹山町2丁目8番16-4号		
電話番号	0836-37-2570	事業所番号	3570200612
法人名	株式会社 マイブティット		

訪問調査日	平成 22 年 2 月 25 日	評価確定日	平成 22 年 5 月 20 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番17号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 4 人 非常勤 5 人 (常勤換算 8.4 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無 円	
保証金	無 円	償却の有無	無	
食費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
その他の費用	月額	25,900 円		
	内訳	光熱水費 15,900円 共益費 10,000円		

(4) 利用者の概要 (1月10日現在)

利用者数	9 名		男性	名	女性	9 名
	要介護1	3	要介護4	1		
	要介護2	1	要介護5	2		
	要介護3	2	要支援2			
年齢	平均 84.3 歳	最低	74 歳	最高	89 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 小沢内科医院 歯科 ほかお歯科クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

毎月全職員参加のミーティングを3時間行い、チームワークを図りながらサービスを提供されています。利用者の健康状態・受診状況・暮らしぶり・行事案内などを掲載した「家族の皆様へ」を毎月発行し、希望された家族(20人)に送付されています。面会や行事参加の家族も多く、職員と家族が一体となって利用者を支援されています。利用者がゆったりと笑顔で過ごされている様子をみられて「まだこんなに笑顔が残っていたのね」などの感想を述べられた家族もおられます。

(特徴的な取組等)

開設当初から地域で受け入れられるように取り組まれ、利用者の徘徊時には、郵便局やガソリンスタンド、お店の人々に協力してもらったり、運営推進会議では、ヒヤリはっと報告などで実態をオープンにされ、介護方法なども地域へ提供されています。災害時の避難訓練、クリスマス会、事業所の祭りは自治会員、家族、運営推進会議のメンバーと一緒にこない、地域の人々も事業所の応援団として活動されています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果については、全職員がミーティングで話し合い、運営推進会議でも検討され、自治会でも年1回町内の清掃活動の後に避難訓練を行なう事を決議されて、合同で災害対策(水害・地震等)避難訓練を実施するように改善されています。

(今回の自己評価の取組状況)

全職員が20日間かけて自己評価書に記入し、自分達のケアの振り返りをして管理者に提出されています。管理者はまとめて職員に回覧し、職員が確認後に作成され、事業所全体でサービスの質を向上させる取り組みをされています。

(運営推進会議の取組状況)

2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、市介護保険課職員、第三者委員、家族(3名)、利用者、管理者、職員等のメンバーで、利用者の状況、行事・研修報告、ヒヤリはっと報告(起こりやすい現場確認)、外部評価報告、地域の情報、行事協力等について意見交換をし、サービスに活かすように取り組まれています。

(家族との連携状況)

毎月1回、行事や健康状態、受診の結果報告、職員の異動などを掲載した「家族の皆様便り」を個別に発行し、希望された家族全員(20名)に送付し、誕生会やクリスマス会等の行事参加時や面会・電話等で、暮らしぶりなどを報告し要望等を聞かれています。家族の面会も多く、死去された後も家族と連携されています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、夏祭り、初詣、敬老会等の地域行事に参加し、事業所の祭りやクリスマス会、災害避難訓練に地域の人々が参加され、年4回地域広報誌を回覧し、地域の方も気軽に訪れています。学童保育児童が企画した運動会、お花の差し入れ、菜の花植えなどのボランティア、散歩時の挨拶などで地域の人々と交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「一人ひとりの人格を尊重し、それぞれの役割を持ち、家庭的な雰囲気環境と地域住民との交流のもとで、ゆっくり・のんびり・たのしく安心して過ごしていただけるよう支援します」という事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>毎朝の申し送り時に理念を確認し、毎月のミーティング・カンファレンスなどで理念の実践に向けて話し合い、共有して日々のケアに取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、夏祭り、敬老会等の地域行事に参加し、事業所の祭り等に地域の人が参加し、合同で災害避難訓練を実施し、年4回広報誌を回覧している。児童が運動会を企画したり、花植えボランティアなども訪れて交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全職員が20日間かけて自己評価書に記入し、自分達のケアの振り返りをして管理者に提出している。管理者はまとめたものを職員に回覧して確認後に作成し、外部評価結果も検討して改善し、サービスの質を向上させている。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、市職員、第三者委員、家族、利用者、管理者等のメンバーで、利用者の暮らしぶり、研修報告、ヒヤリはっと報告、外部評価報告等について意見交換を行ない、サービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>市地域包括支援センターとは、退所者の在宅での生活支援について話し合ったり、介護保険についての情報収集や相談などを行っている。市社会課には定期的に出向いて生活保護者の介護計画等を説明したり情報交換をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月1回、行事や健康状態、受診の結果報告、職員の異動などを掲載した「家族の皆様便り」を個別に発行し、希望者全員(20名)に送付している。誕生会やクリスマス会等の行事参加時や面会・電話等で、暮らしぶりなどを報告している。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	玄関に意見箱を設置し、面会時や電話、運営推進会議等で家族の意見や苦情等を聞くように努め、運営に反映させている。苦情相談窓口、担当者、外部機関、第三者委員を選任し、苦情処理手続きを定めている。第三者委員を家族に紹介し、第三者委員も時々来所して意見を聞かれている。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員9名を確保し、利用者の状況や要望、行事などには職員を増員した勤務体制を組み柔軟に対応している。職員の急な休みには、管理者が応援したり、話し合いで勤務調整している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の離職は殆んどないが、異動の場合は重複勤務を1ヶ月間設け、夜勤は6回重複勤務を行ない、利用者が安心して支援を受けられるように配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修や外部研修は段階に応じて勤務の一環として参加している。研修内容は復命し業務に反映させている。資格取得のための支援を行い、働きながらトレーニングしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や宇部・小野田地区ブロックの勉強会に参加し、施設見学、運営推進会議の視察受け入れや見学などでサービスの質を向上させていく取り組みをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人と家族に施設見学をしてもらい、他の利用者や職員と一緒にお茶を飲んだり、レクリエーションをして馴染みの関係づくりをしている。入所決定後は職員が家庭訪問や施設訪問を行ない、直近の生活の様子を把握して理解を深め、その人らしく過ごせるように支援している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、利用者から調理の味付けや浴衣の着付けなどを教わり、一緒に買い物や食事の準備、野菜作り、お花の手入れなどをしながら、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の何気ない会話などで、利用者の思いや意向の把握に努め、介護記録に記入して職員が共有し、その日の希望に添って支援している。困難な場合は家族と相談したり職員間で話し合い検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスを月1回開催し、本人、家族の希望や主治医、訪問看護師、担当者、職員の意見やアイデアを反映した介護計画の素案を作成し、家族に提示して確認後に作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月毎にモニタリングをして見直しをしている。状態に変化が生じた場合は、関係者と話し合い、新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の送迎や付き添い、医療連携体制加算の取り組み、訪問歯科診療利用の支援、出張美容室の利用、ふるさと訪問、お墓参り、ドライブ、買い物など、要望に応じて柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望を聞き、かかりつけ医への受診が出来るように情報交換をしながら適切な医療を受けられるように支援している。受診結果は毎月家族に便りでも報告している。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」を定め、入所時に説明し、早い段階から本人・家族と話し合い、医療連携体制加算をとり、医師の往診や看護師が訪問している。重度化や終末期に向けた方針を全職員は共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルを作成し研修で学び、自尊心を傷つけない言葉かけに留意し、プライバシーの確保を徹底している。記録物は事務所に保管している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切に、自由に過ごせるように配慮し、その人らしい生活ができるように希望にそって支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食とも事業所で調理し、利用者の好みの献立を立て、一緒に買い物、食事の準備、後片づけなどをして楽しんでいる。職員もテーブルを囲んで同じ食事を食べながら支援している。定期的に1ヶ月分の食事(朝・昼・夕食)の写真を玄関に掲載して、献立や盛り付けの工夫をしている。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日14時から17時30分まで行なわれ、利用者の希望やタイミングに合わせて楽しめるように支援している。入浴を嫌がる場合には、シャワー浴、足浴をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	縫い物、生け花、歌、お花の世話、買い物店スタンプ貼り、猫の世話、ネームプレートづくり、ドライブ、花見などの楽しみごとや、調理、テーブル拭き、食器洗い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、草取り、畑づくりなど、活躍できる場面をつくり気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	事業所の隣接地に花壇や畑があり日常的に手入れや収穫をしに戸外に出ている。食材の買い物、花見、ドライブなど、その日の希望にそって外出が楽しめるよう支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、職員は研修を受講して身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵の弊害を正しく理解しており、見守り体制をとって、鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら職員が同伴している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記録し、全職員参加のミーティングで改善策を検討し、介護計画に反映させて、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年1回普通救命講習やAED講習を受講している。急変時や事故発生時には医師や訪問看護ステーションと連携が取れているため、到着までの間の応急手当や初期対応の訓練は定期的には実施されていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	マニュアルがあり、年2回火災・地震・風水害に対する災害避難訓練(1回は夜間想定)を地域の自治会の人々と合同で実施している。地域から職員の少ない夜間の協力申し出があり、25人訓練に参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報をファイルし、訪問看護師から指導を受け、職員は薬の目的、副作用、用法や用量について理解している。薬はその都度手渡して服用を確認し、変化が生じた場合は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後に口腔ケアを実施し、一人ひとりに合った支援をしている。歯ブラシや義歯は定期的に洗浄し、清潔保持に努めている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ボランティアの栄養士に献立表を点検してもらい、栄養バランスに配慮した献立で、一人ひとりの状態に応じた食事の支援をしている。食事・水分摂取量、体重は毎日記録している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	研修を受け、感染症マニュアルに従って、手洗い、うがいの施行、トイレ消毒、手すりの拭き掃除などを実行している。インフルエンザの予防接種は全員受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間は広く、ソファーや畳のコーナーがあり、玄関に隣接しており、人の出入りも見渡せて、挨拶なども自然に出来る家庭的な共用空間となっている。行事の写真や地域の方のプレゼントの折鶴やトルペイントが飾られ、調理の様子も眺められ、ペットの猫のいる環境も癒しとなっている。室温、換気、湿度管理も適切である。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人や家族と相談しながら、家で使い慣れている家具や生活用品、家族の写真などが持ち込まれ、その人らしく居心地よく過ごせるように工夫している。畑や花壇が眺められる部屋もあり、利用者の意向に沿えるような配慮をしている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム なのはなの家
所在地	宇部市笹山町2丁目8-16-4
電話番号	(0836)37-2570
開設年月日	平成12年7月1日

【サービスの特徴】

いつも地域に根差したグループホームでありたいとの思いで運営に努めてまいりました。「地域の中にグループホームがあっても当たり前といえるようになったね」と運営推進会議での言葉に勇気をもらい、さらに私たちが「地域をつなぐ」ことができるように努めたいと思います。10周年を迎える今年は、職員一丸となって、「チームケア」と「介護の質の向上」に努力していきたいと思ひます。

【実施ユニットの概要】 (1月1日現在)

ユニットの名称	グループホーム なのはなの家			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 0名	女性 9名	
	要介護1	3	要介護4	1
	要介護2	1	要介護5	2
	要介護3	2	要支援2	0
年齢構成	平均 84歳	最低 74歳	最高 89歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	21年9月ミーティング時に外部評価についての予定を伝え、例年通り全員で取り組むことを決めた。1月に自己評価票を配布し、提出期限を1月20日とした。初めての職員には個別に説明を行い、全員から提出を受けたものを管理者が意見をまとめ評価票を作成した。その評価票を職員が確認、了承し終了した。
評価確定日	平成22年1月27日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
6	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		地域の行事に参加することが毎年恒例となり、ふれあいを通して良好な関係が築けている。
7	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		地域の行事は、回覧版で住民と同じようにお知らせがあるし、自治会長からも誘いがある。
8	<p>事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		さらにホームの役割がないかを検討し、積極的に応じられるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価は全員で行い、管理者はその意義を職員に伝えて全員が理解した上で取り組むようにしている。自己評価票への記入は全職員がほとんど空欄なく記入しており職員の意識の高さを感じるし、職員からも一年を振り返る良い機会になるという声も聞かれる。経過や結果、改善策などについても、その都度話し合っって周知徹底するようにしている。	
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は、自治会長、民生委員、家族、市職員、第三者委員、他のグループホームの管理者、職員の参加もあり、活発に意見が交わされている。ヒヤリハットを報告し、出席者全員でその現場や現状を見てもらい、改善策を検討することもある。	その時々でホームや地域が必要としている内容の議題になるような会議にしている。事前に自治会長より議題の提案があったりする。
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	介護保険課、社会福祉課、高齢福祉課、地域包括支援センターなどと連携をとっている。特に運営推進会議の行政担当者とは日常的に報告や相談等をしアドバイスを受けている。ホームの行事へのお誘いもしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	以前、ホームに権利擁護、成年後見の利用者がいたので概要は理解できている。家族からも、利用してみたいとの相談を受けることもある。	地域包括支援センターや社会福祉協議会から研修が受けられるようにしたい
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止についてマニュアル化しており勉強会も行い、虐待に対する認識を共有するようにしている。介護上の行為については、検証を日常的に行っているが、それぞれが意識してそのようなことがないように心がけている。	「高齢者虐待防止教育システムプログラム」にそって定期的な勉強会を実施していく
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書や契約書で丁寧に説明するように努めている。できるだけわかりやすい表現を使い正しく納得、理解をして頂いているかを確認するようにしている。21年4月に介護報酬の改定のあったため、利用料については特に注意して説明している。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎日の生活の中で利用者の言動や態度から不穏や身体上の変化を感じたときは、その原因が何かということを皆で検討をしている。利用者の訴えを職員全員で共有し、不安を取り除くようにしている。第三者委員も来所時に、利用者に声をかけている	
16	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、担当職員より家族へ宛てて生活状況や健康状態、受診状況、ホーム内の行事などを書き込んだ「家族へのお知らせ」を請求書と一緒に送っている。金銭出納報告も同封している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	<p>情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		開示方法の手順のマニュアルがないので作成したい
18	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		研修などが増えると、職員の調整が図れないことも増えてきたので、今後の課題。
21	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		運営者は、職員が相談をしやすい雰囲気をつくり改善や解決策をいっしょに考えるように努めている。
現在女性のための職場なので、諸事情に考慮しながら協力している。			
22	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		ホームの行事などが優先されて、研修に参加出来ないこともある
23	<p>職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		男性利用者の入所があった場合の対応や、男性職員がいたらどうなのかということも考える必要がある。(ボランティアや研修生として受け入れる予定あり)
24	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		初期対応から、職員の誰もが対応できる力量を付けていく。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		他のサービスなどの社会資源の情報収集や協力体制を整えていく。
31	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		その人にとって必要な介護をその人と向き合う中で把握し、それぞれが役割を発揮し、利用者や職員、家族、地域が支え合えるような関係作りを築いている。職員は「いつもあなたのそばにいますよ」といった寄り添いの気持ちや人生の先輩から学びたいという気持ちがある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		利用者同士の関係は変化することが多いので、よく観察して把握していく必要がある。
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		毎日の個人の生活状況、バイタル、食事量、水分量、排泄、入浴などを記録し、体調や心身に変化がないかを毎朝の申し送り確認しており日々の変化に見落としがないようしている。ミーティングで話し合い、利用者ごとに来ることに着目した目標もたてた。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月のケアカンファレンスや毎日の申し送りを実施することにより、気づきや意見を確認し合い全員で共有するようにして計画作成担当者や担当職員を中心にその人の暮らしが読み取れる介護計画を作成している。また、家族にはその都度、意向を聞きケアプランに記載している。	介護の内容に変更や追加が生じた場合、話し合いは行っているが、介護計画として記録されていないことがあるので、意識を持って取り組んでいきたい。
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の実施期間に応じたモニタリングや、変化があった時など職員全員で話し合い、臨機応変に見直しをしているが継続になる計画が多い。家族に対しても、来訪時などに介護計画の変更などを相談し介護計画に基づいたサービスが行えるよう支援している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別のファイルには、日常の生活記録に加えてバイタル、食事摂取量、水分摂取量、服薬記録なども記入できるようにし、出来るだけシンプルで使いやすい様ホーム独自の物を作成した。職員全員で目を通し確認サインを義務付けている。	現在、より把握しやすい書式を検討中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	共用型ディサービスを開始したことにより、よりグループホームのサービスが理解していただけたように感じる。また家族が対応される本人の通院、入院や外泊時には必要な情報をまとめ、利用者、家族が困らないように支援している。外泊時もいつでも帰って来られても大丈夫ということも伝えている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	自治会長、民生委員、ボランティアの人など日常的に地域の方が来訪される。ホームの避難訓練は毎年自治会行事として行われている。自治会長や民生委員が利用者の様子もよくご存知なので、アドバイスをいただくことも多い。	インフルエンザの流行により、一時ボランティアの受け入れを制限したので、様子を見ながら取り入れていきたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	認知症を正しく理解して頂くことを目的に管理者が地域のセミナーに継続して講師として迎えられたり、利用者の生活リズムを乱すことのない程度で個人情報に配慮しながら、ボランティアや地域のこどもたちに解放している。民生委員が地域の人に「介護のことで困ったことがあったら、なのはなの家に相談に行きなさい」と言われていることを聞いたので、適時対応したい。	利用者の生活リズムやのんびりした空間に対応できるボランティアの受け入れをしたい。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	利用者の意向に添えるようホームだけで問題等を抱え込まず、日頃より他のサービス事業者やケアマネジャーと連携をとっており社会資源を広げられるよう努めている。退所され在宅サービスを受けることになった利用者の担当者会議などにも参加している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターとの協働。
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		実際には、準備も出来ない場合もあった。
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報に関する基本方針、利用目的を掲げ、全職員で守るようにしている。トイレには、バスタオルを置き、排泄時にかけてあげプライバシーと尊厳を守ることを徹底している。個人情報の記載書類や薬袋などはシュレッターにかけたり焼却したり取扱いには十分注意している。</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者の自立支援、自己決定がなされるように職員は説明と同意を心がけている。質問や声かけはわかりやすく短くまとめるようにしている。意思疎通がうまく出来ない場合は、YES or NOの閉じた質問の手法を用い、表情や行動を見落とさないように気持ちに寄り添うようにしている。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>役割を持ってその人らしく生活して頂くために、力量に合わせた場面作りややる気を起こしてもらえようような声かけ、その場面に必要な物品の準備などを行い一人一人の状況に合わせた支援を行っている。</p>	
59	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>できるだけ利用者の希望にそった支援を心掛けているが、大まかなスケジュールは職員の業務や利用者の健康維持が優先されがち場面もある。また、日々の生活がマンネリ化されていると感じることがあり、職員のペースに合わせてしまうこともある。</p>	<p>退屈ない生活を過ごすための、場面作りの工夫が必要。職員の都合で動いているときがあるので、常に利用者主体を意識する。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝の整容に気を遣っている。服装や化粧品は本人の希望にあわせて買物に同行したり支援している。本人や家族の希望により、出張美容を利用している。行事に合わせてお化粧品をして喜ばれている。</p>	<p>忙しいときなど、職員がその時の服装を決めていることがあるので利用者の自己決定を優先する。</p>
61	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>できるだけ利用者それぞれの好みを取り入れ、買物や下ごしらえ、後かたづけなどを一緒に行い食事を楽しむことのできる支援を行っている。好き嫌いのある利用者にはある程度の献立の変更は出来るが、不満を持たれることもある。行事のときにはそれに見合った献立をたてている。</p>	<p>ミキサー食でも、おいしく食べられる工夫が必要。</p>
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>現在、希望者のいないこともあり、お酒やたばこに関しては支援を行っていない。お茶の時間の飲み物は、それぞれの希望や好みを聞き準備している。個別に飴などのお菓子を希望される方の対応を検討している。</p>	<p>カロリーや身体の状態を考慮すると、利用者の気持ちは理解できるが、どのように対応するかを思案中(薬剤師には相談してみた)。</p>
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄表に記録することにより排泄パターンを把握しできるだけトイレで排泄できるよう誘導している。特に便秘や頻尿には注意するようにしている。十分な水分補給と個別に食物繊維を取り入れたり家族と相談しながら支援している。排泄の失敗にもさりげなく対応している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日より時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		<p>身体状況により、職員一人では入浴介助が困難となってきた利用者が増えてきたため、入浴方法等を検討中。自己表現の困難な利用者に対して一人ひとりの希望、タイミングとは何かを考えていく。</p>
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		<p>電気毛布やあんかを使用する際は注意が必要。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		<p>興味や自信が持てるように働きかけをする。徐々に出来なくなって、「もうやりたくない」という気持ちにどうのうように添っていくべきか検討が必要。</p>
67	<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68	<p>日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p>普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p>家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p>家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		<p>家族に宿泊や寝具の準備があることは伝えている。今後ターミナルケアが必要となった場合を含め、付き添いで宿泊の必要もあるかもしれないので食事などの支援も行っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		その時の状況に適切に対応することが重要であるので、常に意識することが必要。
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		浴室にマットや手すりを増やし改善を図ってみた。
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		講習への自主参加や知識を得るための勉強会等への取り組みが必要。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		同じような内容のケースが上がってくることがあるので、更に改善策を講じていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		地域で避難訓練を行う必要を理解していただき継続して行っているが、今後も定期的に継続して行いたい。
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
また、			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		薬の内容が変更になった時の周知徹底を図る(担当者まかせにせず、確実に申し送りをする)。副作用まで理解していないことがある。
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		利用者が楽しんで体が動かせるような体操を探し、毎日行えるようになった。
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		調理はそれぞれの職員の力量によるところが大きいので、栄養士や保健師からのチェック、アドバイスを受けるようにする。
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		うがいを出来ない利用者が増えてきたため工夫をする。
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		マニュアルで衛生管理の方法を取り決め実行している。食材の買いだめはせず、毎食買い物に行き、新鮮な食材で調理するようにしている。また調理用具の消毒の徹底をしており、十分に守られている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りに、家族や地域の人にも協力してもらい花を植えたりして入りやすい雰囲気を作っている。また施錠はせず、いつでも出入りができるようにしている。玄関内も季節の飾り物や地域の方から頂いた折鶴などを飾り、お知らせなどの書類もできるだけ手書きにして温かみのあるものになっている。	
91	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	デイルームからは、常に音や光が感じられ、利用者の五感に働きかけがなされている。フロアの飾り付けも、季節感の感じられる物を毎月手作りし楽しみにされている。また調理中の音やにおいなどにも気を配り、五感を刺激するようにしている。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の端にソファを置き、一人になれる時間と場所を作っている。また畳のベンチを置き、寝そべったり、猫と遊んだり気の合った人でお茶をしたりできるようなスペースを確保している。そういう場面もしばしば見られ、リラックスをされているように感じる。	
93	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、本人のなじみの家具などを持ち込んでもらい、写真や人形なども飾ってできるだけ自宅に近い環境作りを支援している。こういうものがあつたらと気づいたら家族に伝え可能であれば持ってきて頂くよう働きかけをしている。	家族からの協力が得られにくかったり家族がいない利用者は担当職員と一緒に居場所を作っている
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気を十分に行うようにしていやな臭いのないように心がけている。温度調節も、利用者を主体して考え温度計やエアコンを利用してこまめに管理するようにしている。加湿器も必要な時は設置している。	寒い時期の夜間、居室と廊下に温度差があるので、トイレに出てこられたときに注意する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	利用者にとって生活空間に危険な物はないかをチェックし安全な環境に整える。身体状況に合わせて、手すりの増設などをしてできる能力を発揮できるように支援している。また車いすやシルバーカーを使用する利用者がいるので注意し安全に自由に生活が送れるよう支援している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	誤認や判断ミスが起こらないようにトイレや風呂の表示に工夫をしている。居室にも手作りの表札を付け誤認がないようにする。混乱が生じているときは見守りを重視しさりげなくゆっくりに対応することを心がけている。また失敗を失敗と感じさせないように言葉かけにも配慮する。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	地域の人と一緒に作っている畑は、野菜や花を育てることから収穫することや眺めに行くことなどが一番の楽しみになっている利用者もいる。春にはイチゴ、夏はゴーヤがたくさんでき毎日収穫を楽しむことができた。また洗濯を干したり掃除をしたりと役割を発揮できる場がある。自治会長が使っていない敷地に花畑を作って下さり、建物の中からも花が楽しめるようになった。	地域と人と共同による畑作りが積極的に行われている。花壇の周りにベンチを設置したい。

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1/3くらいの	<input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> たまにある	<input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input checked="" type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1/3くらいと	<input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度 <input type="radio"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> あまり増えていない	<input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の1/3くらいが	<input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1/3くらいが	<input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない